

『沖縄芸術の科学』第32号別刷

沖縄臼太鼓旋律のリズム分析試論
－奄美大島八月踊り旋律と比較して－

久万田 晋

2020年3月

沖縄臼太鼓旋律のリズム分析試論

－奄美大島八月踊り旋律と比較して－

久万田 晋

A Rhythm Analysis: The Melodies of “Ushideeku” in Okinawa Island in Comparison with the Melodies of “Hachigatu Odori” in Amami Oshima Island.

Susumu KUMADA

The purpose of this paper is to shed new light on the dispersal and mutual influence of the melodies of folk music in the northern Ryukyu cultural area by comparing the rhythmic structures of the melodies of “Ushideeku” in Okinawa Island and “Hachigatsu-Orodi” in Amami Oshima Island. It is argued that comparative analysis of “rhythm patters of syllables” can reveal the relationships among folk melodies of different regions and genres in terms of affinity, closeness, and dispersal.

第1節 本論の目的

沖縄本島の臼太鼓と奄美諸島の八月踊りは、前者が女性の太鼓輪踊り、後者が男女の太鼓輪踊りと芸能としては一見相違点があるが、芸能・音楽の構造の上では共通点が多い。奄美諸島と沖縄本島および周辺離島は、北琉球文化圏として共通する文化的要素も多い。まず琉歌形式（8886）の歌詞を歌う民謡が支配的であることが挙げられる。沖縄本島の臼太鼓においても、奄美大島の八月踊りにおいても、琉歌形式の歌詞で歌う旋律が大部分を占めることで共通している。

本論の目的は、沖縄本島の臼太鼓と、奄美大島の八月踊りの旋律のリズム構造について比較分析することで、北部琉球文化圏における民謡旋律の伝播関係、相互影響関係についての展望を得ることを目的とする。

臼太鼓（ウスデーク、ウシデーク、ウシンデーク等と呼ばれる）は、沖縄本島の全域に分布する女性の集団太鼓輪踊りである。かつては沖縄本島の周辺離島にも分布していた。夏の折目の時期に行われるウングミ（海神祭）やシヌグ、十五夜行事など、神を迎える祭りの直会として踊られることが多い。臼太鼓の様式を大きく分けると、歌と踊りのテンポが速く体の動きがダイナミックな北部様式と、テンポが相対的に遅く体の動きもゆるやかで、扇や四つ竹など小道具を使う中南部様式とに大別できる。臼太鼓は地域によって10曲程度から10数曲程度のレパートリーをもつ。

奄美諸島の八月踊りは、奄美北部の奄美大島、喜界島、徳之島で夏の節目の時期に盛んに踊られる男女の歌掛けによる集団太鼓輪踊りである（徳之島では七月踊り、夏目踊りなどと呼ばれる）。かつてはムラの人々が家々を踊って廻るのであるこのヤサガシ（家探し）が行われていたが、現在では次第に広場など一ヶ所での踊りに変化してきている。八月踊りは地域によって10数曲から40曲以上のレパートリーをもつ。歌の演唱は、男性と女性の歌の掛け合いによって進行してゆく。

沖縄本島の臼太鼓と奄美諸島の八月踊りを比較すると、臼太鼓は女性のみで踊られるが、奄美の八月踊りは男女の掛け合いで歌い踊られるという点が異なっている。また沖縄本島のほとんどの臼太鼓は歌詞が固定した内容と順番（琉歌形式が主体）で歌われているが、奄美諸島、特に奄美大島の八月踊りでは今でも男女の間で即興的な歌掛けが行われているなど演奏形態にも違いがある（久万田2011 第3章、第6章参照）。

このような相違点にも関わらず、奄美諸島の八月踊りと沖縄本島の臼太鼓とは芸能構造的に類似点が多く、芸能の源は同じ処にあるのではないかと考えられる。両者の芸能構造上の共通性としては、以下のような点があげられる。

- ・踊り手が円陣となり太鼓を叩きながら自ら歌い踊る。
- ・南島の夏正月において、集落の重要な折目の行事に踊られる。
- ・琉歌形式（8886）の歌詞を中心として、有節形式（繰返し構造）の旋律によって歌う。
- ・踊りのパターンは曲毎に拍周期を持ち、そのパターンをくり返して踊る。
- ・踊りの拍周期は旋律の拍周期とは無関係に並行的に進行する。

本論ではこのような共通点を持つ沖縄本島の臼太鼓と奄美諸島の八月踊りとは、発生・成立において淵源を同じくしているという立場から、両者の旋律のリズム構造を比較するものである。

ここで、本論に関わる先行研究について触れておきたい。小林公江は、沖縄本島全域の臼太鼓を網羅的に調査し、旋律の採譜資料を多数作成してきた。またそれらに基づいて臼太鼓の様式について論じながら、沖縄本島に分布する膨大な臼太鼓旋律を網羅した旋律比較表を作成している(小林 1986)。これは(小林による他の多くの臼太鼓に関する研究成果も含めて)、沖縄本島の民俗音楽において、分布の広がりや伝承地区の数多さなどの点から非常に重要なジャンルである臼太鼓を対象とした前人未到の重要な研究である。

金城厚は、琉歌形式の歌詞を歌う臼太鼓の旋律について、歌詞配分リズムという分析法によって類型化を試みている(金城厚 2004)。これは琉歌の音数律の基本単位である8音がどのような音楽的リズムとして歌われるかという観点に立ち、基本形から変異、縮小、脱落短縮、伸長、拡大、倒置、三拍子へと展開される過程を分析している。

筆者(久万田)は、奄美大島北部の八月踊り旋律について、これまで「シラブルのリズムパターン分析」という方法によって分析を行ってきた(久万田 1994)。これは一見、金城の「歌詞配分リズム」の方法と類似している。しかし両者は、その発想と目的が異なっている。金城は「歌詞配分リズム」によって、沖縄の臼太鼓を含む民謡や古典音楽の旋律を貫く基本的・普遍的原理を抽出することを目的とした、いわば演繹的方法といえる。それに対して筆者が目指しているのは、各々の民謡旋律の個性がこのリズムパターンに現れているという考えから、民謡旋律の系統関係・類縁関係を明らかにすることを目的とした、いわば帰納的方法である。さらに、異なる地域やジャンルの民謡旋律を、この「シラブルのリズムパターン」から比較分析することによって、旋律間の類縁性や近親性、伝播関係を明らかにできると考えるのである。

第2節 分析の方法

小林公江は、沖縄本島北部の国頭村安波臼太鼓についての報告において、全16旋律の採譜記録を作成すると共に、それらの旋律について筆者(久万

田)と同じくシラブルのリズムパターン分析を行っている(小林 1994a)。そこにおいて奄美八月踊り旋律では顕著に見られる句単位の反復形式(たとえば ABCDCD、ABBCDD など)が安波臼太鼓旋律ではあまり見られないという重要な点を指摘している。ここでは、小林による国頭村安波の臼太鼓の五線譜記録に基づき、再度筆者なりの観点によるシラブルのリズムパターン分析を行い、奄美大島笠利町城前田八月踊り旋律のシラブルのリズムパターン分析(久万田 1994)と照合作業を行うことにする。

筆者(久万田)は奄美大島北部の八月踊で傳承されている旋律全 43 種について採譜を行い(久万田 1991)、それらの旋律についてシラブルのリズムパターン分析による研究を行ってきた(久万田 1994)。これは、八月踊りの旋律において歌い込まれる歌詞の各シラブル(歌詞部分+ハヤシ詞部分)が、各々の旋律においてどのようなリズムパターンで歌われるかを分析するものである。旋律における音の高低変化は捨象して、歌詞(8886 や 7775 など)を構成する ABCD の各句毎にリズムパターンを抽出してゆく。旋律によっては、ABCD の 4 句をそのまま歌う場合と、4 句の中の特定の句を反復して旋律一節を歌う場合とがある。たとえば、ABCDCD のように 4 句体の後半部分を繰り返すものや、さらに ABCDCCD のように 3 句目が二度繰り返されるものもある。

分析の結果、全体を大きく 2 つの異なる様式に分類した。すなわち、単一リズムパターン型と複合リズムパターン型である。さらに複合リズムパターン型の下位区分として狭義の複合リズムパターン型と複合・2 リズムパターン型を区別したので、全体としては次の 3 つのグループに分けた。

(1) 単一リズムパターン型

節構造としての旋律を構成する各句が、ほぼ種類のリズムパターンの繰り返しによってできているもの。旋律として琉歌形式の歌詞 8886 を歌うとしても、各句(ABCD)がほぼ同一のリズムパターンで成り立っている。つまり基本リズムパターンは 1 句に対応しているものである。八月踊り旋律の中で最も基層的な構造を残しているタイプと見ることができる。

(2) 複合・2リズムパターン型

旋律一節が2つのリズムパターンから構成されていると見なせるもの

〈あらしやげ〉系 (ABCDCCD 形式)、〈あがんむら〉系 (ABCD 形式)、
〈うらとみ〉系 (ABBCDD 形式)、その他

節構造としての旋律を構成するリズムパターンが、2句体に対応しているもの。旋律として琉歌形式の歌詞 8886 を歌うとしても、A と B、C と D という2種のリズムパターンの要素で成り立っている。つまり基本リズムパターンは2句に対応しているものである。琉歌形式4句体の歌詞を歌う場合、旋律を2回繰り返すものが多い。これは、歌謡学者の小川学夫が指摘するように (小川 1989)、4句体の琉歌形式成立の前段階の2句体歌詞に対応した旋律構造の痕跡を内包している旋律だと考えられる。

(3) 複合リズムパターン型

旋律一節が3つ以上のリズムパターンからなるもの。その半数は 7775 という日本本土由来の詞形の歌詞で歌われる旋律であり、日本本土 (九州南部) から伝播してきた旋律である可能性が高い。

表1「城前田八月踊り旋律分類表」は、奄美大島島北部城前田集落 (奄美市笠利町笠利一区) の八月踊り旋律全 43 種について、この分類に基づいて表にまとめたものである (初出は久万田 1994 p.344 表2)。

小林公江 1994 に採譜が掲載された安波集落の臼太鼓 16 旋律について、筆者なりの観点からシラブルのリズムパターン分析を行い、巻末資料「安波臼太鼓旋律 シラブルのリズムパターン分析」を作成した。これは前述のように各旋律の各句 ABCD (歌詞 8886 の各句) について、音高関係は捨象して各シラブル (歌詞部分プラスハヤシ詞) のリズム的配置を図化したものである。

表1 城前田八月踊り旋律分類表 (シラブルのリズムパターンより)

複合・2リズムパターン型

<あらしやげ>系 ABCDcCD

K1<1あらしやげ>
16<喜界や湾どまり>
23<かんでく>
2<祝つけ>
25<いそ踊り>

<あがんむら>系 ABCD

15<やんごらぬいぶ>
21<あがんむら>
K10<とんばらのくずし>

K5<芦花部一番>
K12<しゅんかねくわのくずし>

<うらとみ>系 ABB [CDD]

6<うらとみ>
K15<塩道長浜>

19<ヤサレノトイトイ>
22<曲がりよ高ちじ>
K2<東立ち雲>

1<おほこれ>
18<港川水>
K9<ヤーヨヌフェ>
K11<稲すり節>
K14<今の風雲>

K3<那覇好き衣装買い>
K4<どんどん節>

5<あじそえ>
17<ヒヤルガヨイソレ>
K13<口説>

単一リズムパターン型

8<とんばら> ABCDCD
9<しゅんかねくわ> ABCDCD
13<うりやげどり> K16<花染め>ABB [CDD]
K8<なかなばるしょーたや>ABCdD

20<牛やだり> ABCD
K7<ヒヤルガフェ> ABCD

7<つじさだぬうみ> ABcc
11<庭ぬ糸柳> ABCDccCD
24<めぐりあんど> ABCD

複合リズムパターン型

3<まけまけ> ABCD
4<サンバノフェ> ABCD
14<赤木名観音堂> ABCD
K17<エンヤレコレ> aAB cCD

K18<ホコラシャ> AbB [CcD]

10<ねんごろじゅ> ABCDcCCD
12<人が嫁女> ABCDCCD

K6<うんにやだる> ABCDCD

第3節 安波臼太鼓旋律のリズムパターン分析

本節では、巻末資料「安波臼太鼓旋律 シラブルのリズムパターン分析」と、奄美大島笠利町城前田（笠利一区）の八月踊り旋律全43種についてシラブルのリズムパターンの分析結果（久万田1994）との比較検討を行う。

1. 三年まんぬしぬぐ

C 旋律は B 旋律の反復。各句のリズムパターンが類似する単一リズムパターン型である。城前田〈あらしやげ〉系のリズムパターンとの類似性を思わせるが、城前田〈あらしやげ〉系では、A～C 各句後半が | 6 - 7 - | - - 8 - | というシラブル配置となるのに対して、この曲の A～C 各句後半は、|ヨ* - 6 7 | - - - 8 | と第6シラブルの配置が後ろにずれ、第8シラブルの配置もやや後ろにずれている。

2. 宇地泊節

CD 旋律は AB 旋律の反復。リズムパターンは、城前田〈あらしやげ〉系に類似している。城前田〈あらしやげ〉系との相違点としては、城前田〈あらしやげ〉系の旋律はいずれも ABCDCCD という下2句が反復される形をとるが、この曲は ABCD であり下2句反復がみられない。

3. 恩納節

CD 旋律は AB 旋律の反復。城前田〈あがんむら〉系とやや類似している。A 句、B 句のリズムパターンにやや変形されているが、類似性を見ることができる。ただし、A 句、D 句の末尾に付いたハヤシ詞「ヤリヤリヨ アラユイサユイサ」は、城前田〈あがんむら〉系にはない。この曲は沖縄本島の臼太鼓において非常に多く分布している旋律である。根底には奄美大島〈あがんむら〉系と同質の構造を持ちながら、沖縄本島の中で多くの地域に伝播し、多様な展開をした旋律と考えるべきであろう。

4. 散山節

小林 1994 の楽譜では、この曲の 5、9、16 小節目の休符に括弧が付けられている。この休符を有効としてシラブルのリズムパターンを作譜すると、リズムパターン上の規則性を見だしがたい。ここでは休符がないとした場合のリズムパターンを見てみると、A 句、C 句後半部のリズム配置が引き延ばされ、B 句後半のリズム配置が縮まっている形は、やや城前田〈あがむら〉系との類似性を匂わせている。しかしそれ以上の城前田八月踊り旋律との類似性は発見できない。

なお、小林公江は「白太鼓における〈散山節〉」（小林 1993）において、沖縄本島各地の白太鼓に伝わる同系曲 18 種に古典音楽 2 種を加えて詳細な比較検討を行っている（小林 1993）。

5. 干瀬に居る節

CD 旋律は AB 旋律の反復。A 句の第 4 シラブルおよび B 句第 2 シラブルが 1 拍分長いところ以外は、シラブルのリズムパターンが城前田 18 〈港川水〉と一致している。ただしこの曲は ABCD 型である一方、城前田 18 〈港川水〉は ABCDCD 型であるが、後半 2 回の CD 旋律は AB 旋律の反復なので、構造的な相違ではないと見ることができる。

6-1. あたい芋節 1

CD 旋律は AB 旋律の反復。A 句と B 句でリズムパターンが異なることから、複合・2リズムパターン型である。リズムパターンは、城前田 17 〈ヒヤルガヨイソレ〉とやや類似している。ただし、この曲の B 句第 6～8 シラブルは歌われない点が城前田 17 〈ヒヤルガヨイソレ〉とは異なる。また、長大で特徴的なハヤシ詞が B 句、D 句の末尾に付く点は共通しているが、語句そのものは似ていない。

6-2. あたい芋節 2

CD 旋律は AB 旋律の反復。かつ、A 句と B 句のリズムパターンが同一の単

ーリズムパターン型である。シラブル数6のD句末尾には、B句末尾と同じ「スレザンナヨイ」というハヤシ詞が続いている。この曲は、安波13<安波節>と同じく、城前田13<うりゃげどり>との類似性を思わせる。ただし安波13<安波節>と城前田13<うりゃげどり>では、AB句の第5～8シラブルが|5-6|7-|8となるのに対して、この曲は|5-|67|8となっている点が異なる。また城前田13<うりゃげどり>は反復形式もABBCDDという前半部、後半部各々で下句が反復される形であるが、この曲はABCDとなり句反復が見られない点も異なっている。

7-1. 大田名節1

シラブルのリズムパターンが城前田<あがんむら>系と類似している。なかでも城前田K5<芦花部一番>、K12<しゅんかねくわのくずし>との類似性を思わせる。ただし、城前田<あがんむら>系は、上句ABと下句CDの旋律の類似度が高く、本来はAB旋律を反復する形から展開してきたことを思わせるが、この曲では各句旋律の音域が異なり、単純な反復の痕跡は見られない。

7-2. 大田名節2

A～D各句のシラブルのリズムパターンに共通性が見だしにくく、城前田旋律との類似性も見だしにくい。A句の第4シラブルが半拍から1拍後ろに配置されると考えれば、城前田<あがんむら>系とやや類似性があると見れなくもない。

8. あぬ伊集節

CD旋律はAB旋律の反復。
城前田<あがんむら>系との類似性を思わせる。譜面上ではこの曲の2小節(4拍)分が城前田<あがんむら>系の1小節(2拍)分に対応する拡大縮小関係となっている。ただし、城前田<あがんむら>系とは次のような点で異なっている。1) A句とB句の第1～3シラブルの配置が異なる。2) A句、C句の第8シラブルの配置位置が前に来ている。3) B句の第6～8シラブル配置が短く詰まっている。

9. ハリ諸鈍

琉歌の形式になっていない。B句、C句の旋律はA旋律の反復であることから、単一リズムパターン型である。ただし、各句の後半で| 6 * - 7 - | - 8と第8シラブルが後ろに配置される点は、城前田<あがむら>系と類似している。こういう形は、城前田の単一リズムパターン型の中では、城前田24<めぐりあんど>にも見いだせる。

10. ぢんなく節

ABCD CD という下2句反復型で、後半CD旋律は前半CD旋律の反復。A～D各句のリズムパターンの同一性が高い単一リズムパターン型である。シラブル数が6と少ないD句は他の句の第7～8シラブルの位置にハヤシ詞「ヒヤルガ」が配置されている。この曲は城前田9<しゅんかねくわ>と類似している。ただし、各句の第6～8シラブルの配置がやや異なっている。

11. ちんちゃぐぬ花

ABCD CD という下2句反復型で、後半CD旋律は前半CD旋律の反復。城前田K3<那覇好き衣装買い>と類似している。ただし、城前田K3<那覇好き衣装買い>の方は ABCD という形で下2句反復型ではない。この曲のハヤシ詞の「ウマデンスナ」は、奄美大島の八月踊りでは<でっしょ(手習)>という曲に特有なもので、城前田K3<那覇好き衣装買い>もその一系統である。この曲は奄美大島の<でっしょ>系の旋律と繋がりがあるといえる。

12. 永良部瀉原節

歌詞は88という琉歌の半分の詞型が歌われている。城前田5<あじそえ>と各句前半のリズムパターンが類似している。城前田5<あじそえ>は55という詞型の歌詞を歌う、城前田八月踊り旋律の中でも特殊な曲である。

小林公江は「沖永良部瀉原考」(小林1989)において、沖縄本島各地の白太鼓に伝わる同系曲19種に加え、奄美大島八月踊り旋律2種も交えて詳細に比較分析している。

13. 安波節

CD 旋律は AB 旋律の反復。かつ A 句と B 句のリズムパターンが類似している単一リズムパターン型である。シラブル数が6と少ないD句は、B句のパターンより2拍分短くなっている（巻末資料 ←←の部分）。城前田13<うりゃげどり>と類似している。ただし、城前田13<うりゃげどり>は ABBCDD という上句下句各々で後半の句が反復される形式である点は異なっている。また、この曲のB句とD句の後ろに付いた長いハヤシ詞「トゥントゥンテントゥンタガスルメユスッサ〜」は、城前田13<うりゃげどり>の方にはない。

14. あさぎ庭

A～D各句のリズムパターンがほぼ同一の単一リズムパターン型である。城前田9<しゅんかねくわ>と類似している。ただし、城前田9<しゅんかねくわ>は、ABCDCD という下2句反復型だが、この曲は句の反復がない。また、城前田9<しゅんかねくわ>にはD句末尾にハヤシ詞「サーサシュンカネクワ」が付くが、この曲にはハヤシ詞は付いていない。

第4節 分析のまとめ

以上のような安波臼太鼓旋律と城前田八月踊り旋律のシラブルのリズムパターンの比較分析結果から、類似性を便宜的に「高」：かなり類似もしくは同系統、「中」：それなりの類似関係がある、「低」：いくらかの類似関係は類推できる、の三段階に分けて表2にまとめた。

表2 安波臼太鼓旋律と城前田八月踊り旋律の類似度関係表

安波臼太鼓 旋律曲目	城前田八月踊り旋律		
	類似度：高	類似度：中	類似度：低
1. 三年まんぬしぬぐ		<あらしやげ>系	
2. 宇地泊節		<あらしやげ>系	
3. 恩納節		<あがんむら>系	
4. 散山節			<あがんむら>系？
5. 干瀬に居る節	18. 港川水		
6-1. あたい苧節 1		17. ヒヤルガヨイソレ	
6-2. あたい苧節 2		13. うりやげどり	
7-1. 大田名節 1		<あがんむら>系	
7-2. 大田名節 2			<あがんむら>系？
8. あぬ伊集節			<あがんむら>系？
9. ハリ諸鈍		<あがんむら>系	
10. ちんなく節	9. しゅんかねくわ		
11. ちんちゃぐぬ花	K3. 那覇好き衣装買い		
12. 永良部潟原節	5. あじそえ		
13. 安波節	13. うりやげどり		
14. あさぎ庭	9. しゅんかねくわ		

※安波臼太鼓旋律の番号は、小林 1994a による。城前田八月踊り旋律の番号は本論表 1（久万田 1994 に基づく）による。

安波臼太鼓旋律と城前田八月踊り旋律について、シラブルのリズムパターン分析によって比較した結果を表 2 にまとめた。この中では、類似度：高が 6 曲 37.5%、類似度：中が 7 曲 43.8%、類似度：低が 3 曲 18.8% となった（小数点以下第 2 位四捨五入）。類似度：高と中を合わせると、13 曲 81.3% と 8 割を超えている。このことから、安波臼太鼓旋律と城前田八月踊り旋律は、シラブルのリズムパターンという分析方法から見えるリズム構造に相当の共通性があるといえる。

しかし、このことがただちに安波臼太鼓と城前田八月踊りに直接的な繋がりがあることを意味するわけではない。両地域は歴史的な文物交流の経路から考えてもかなり遠く隔たっている。両地域間の直接的伝播・影響関係を考えるに

は無理がある。むしろ、両地域を含む広い範囲での伝承旋律のリズム構造の共通性について考えるべきであろう。すなわち沖縄本島北部各地の臼太鼓が伝承してきた旋律群と奄美大島（さらに奄美諸島）各地の八月踊りが伝承してきた旋律群の間にはかなりのリズム構造の共通性が存在している。特に今回の分析で類似度：高とみなせるような旋律は、沖縄本島北部から奄美諸島にわたる広い地域にわたって伝播している旋律である可能性を示唆するのである。このことを実証するには、ある程度の範囲での沖縄本島内の臼太鼓旋律の類縁・系統関係を調べ、同じくある程度の範囲の奄美諸島（たとえば奄美大島内）の八月踊り旋律の類縁・系統関係を調べた上で、両ジャンル（沖縄本島臼太鼓と奄美諸島八月踊り）の旋律群の比較を行うべきである。今回の分析結果は、沖縄本島の臼太鼓旋律と奄美諸島の八月踊りの旋律を比較分析することには何らかの意味があるということだけは示唆しているのである。

表2において、類似度：中と判断している中で現れる〈あらしやげ〉系、〈あがんむら〉系というのは、表1にも示しているとおり、城前田八月踊り旋律の中で、そこに含まれる旋律数が多いグループである。つまり城前田八月踊りにおいては、複数の旋律群が同質のリズム構造を共有しているということである。これは、ある基本的なリズム構造を元に複数の旋律が派生・成立してきたという、奄美大島の八月踊り旋律の成立・展開過程を示唆しているのである。そのためには奄美大島内他地域の八月踊り旋律との類似・系統関係をまず明らかにすべきであることは言うまでもない。

こうした奄美の一地域で複数の旋律に共有されるリズム構造と類似したリズムパターンが、沖縄本島北部安波臼太鼓の旋律にも見られるということは、重要な意味を持っている。すなわち、奄美大島～（奄美諸島）～沖縄本島（北部）という地域的な広がりの中で、これらのリズム構造を持った旋律が何らかの過程を経て伝播・拡散され、今日まで各地に伝承されていることが想定できるのである。

また今回の分析で、類似度：低と判断した旋律（4. 散山節、7-2. 大田名節2、8. あぬ伊集節）であるが、これについては安波臼太鼓の当該旋律と一致する城前田八月踊り旋律は見られなかった。ただ、いずれの曲も城前田〈あがんむら〉系旋律群のリズム構造と、低い程度の構造的類似性はうかがえると判断した。

これらについては、一曲々々の旋律のリズム構造を比較するのではなく、今後より広い構造的な類似性、より広い空間的範囲を想定しての比較分析が必要であると考えている。

おわりに

本研究は、奄美大島の一地区と沖縄本島北部の一地区に伝わる旋律群を比較分析したものである。これはあくまで点と点との比較であり、試論的な段階にとどまっている。しかし、奄美大島の八月踊り旋律と沖縄本島の臼太鼓の旋律が、決して単純な影響・伝播関係では説明できない高いレベルでのリズム構造の同質性・類似性を有していることの一部は明らかにできた。今後は沖縄本島の臼太鼓、奄美諸島の八月踊りという各ジャンルでのより詳細な比較検討を進めた上で、両ジャンルの旋律群の比較分析を行いたいと考えている。

参考文献

- 小川学夫『歌謡（うた）の民俗 奄美の歌掛け』雄山閣、1989年。
金城厚『沖縄音楽の構造－歌詞のリズムと楽式の理論－』第一書房、2004年。
久万田晋「奄美大島笠利町城前田の八月踊り歌」『沖縄芸術の科学』第4号、1991年。
久万田晋「奄美民謡旋律のリズム構造」小島美子・藤井知昭編『日本の音の文化』第一書房、1994年。
久万田晋『沖縄の民俗芸能論－神祭り、臼太鼓からエイサーまで－』ボーダーインク、2011年。
小林公江「沖縄県の臼太鼓」『諸民族の音 小泉文夫先生追悼論文集』音楽之友社、1986年。
小林公江「永良部潟原考－旋律と歌詞の比較研究－」『関西楽理研究』第6号、1989年。
小林公江『臼太鼓における＜散山節＞』『関西楽理研究』第10号、1993年。
小林公江「国頭村安波の臼太鼓－歌の伝播に関する一考察－」『沖縄芸術の科学』第7号、1994年（小林1994a）。
小林公江「沖縄の臼太鼓曲の旋律構造」小島美子・藤井知昭編『日本の音の文化』第一書房、1994年（小林1994b）。

資料 安波臼太鼓旋律

シラブルのリズムパターン分析

凡例

- ・本資料は、小林公江「国頭村安波の臼太鼓-歌の伝播に関する一考察-」『沖縄芸術の科学』第7号（1994）中の五線譜楽譜（pp.155-165）全16旋律について、シラブルのリズムパターン譜を作成したものである。
- ・A～Dは各曲における歌詞の音数律（主に琉歌の8886）の各句（第1～4句）を示す。各段内の数字（1～8）は各句内の各シラブルに該当する。
- ・小節の区切りは|で示し、その段が小節途中で終わる場合は//で示した。
- ・1小節（|の間）は、原則として四分音符4拍分に該当するが、曲によってはリズムパターン明示のため、異なる小節の区切り方になっている。
- ・休止符の部分は*で示した。休止符のあと同シラブルが続く場合は-で示した。
- ・旋律のヴァリアンテなどで拍が省略されている部分は-で示した。

1. 三年まんぬしぬぐ C旋律はB旋律の反復

A	1 2 3	4 - - 5	3 * -6 7	- - - 8	3 * //
B	1 2	3 4 - 5	3 * -6 7	- - - 8	3 * -//
C	1 2	3 3 4 5	3 * -6 7	- - - 8	3 * -//
D	1 2 3	4 - - 5	6 ハリヨ -ン	ナ* //	

2. 宇地泊節 CD旋律はほぼAB旋律の反復

A	1 2 3	4 - - 5*	6 - 7 -*	- 8 マタ //
B	1 - 2 3	4 - *-5	6 - 7 -	8 - //
C	1 - 2 3	4 - - 5*	6 - 7 -75	ヲイサ ヲイサ - 8 マタ //
D	1 - 2 3	4 - *-5	6 ウネヤラ	フォン ド* //

3. 恩納節 CD旋律はAB旋律の反復

A	1 2 3 3	4 - 5 3	6 - - 7	- 8 ヤリヤ	- リヨ 7514	ヲイサ //
B	1 2 3	4 - 5 -	6 7 - 8	* //		
C	1 2 3 3	4 - 5 3	6 - - 7	- 8 ヤリヤ	- リヨ 7514	ヲイサ //
D	1 2 3	4 - 5 -	6 -	イイスリ		

4. 散山節 休符のある場合（元楽譜の5、9、16小節目）

A	12 3	4 - - 5	6 - 7 *	- 8 スリ //
B	1 - 2 3	4 * - -	5 6 7 8 75	ヲイサ サヌ //
C	12 3	4 - 5 ←←	6 - 7 *	- - - 8
D	1 2 -3	4 - *-5	- 6 サユオン	ナ //

散山節 休符のない場合（元楽譜の5、9、16小節目）

A 12 3 | 4 - - 5 | 6 - 7 * - | 8 スリ //

B 1 - 2 3 | 4 * - - 5 | 6 7 8 アユイヤ | サヌ //

C 12 3 | 4 - 5 ← ← | 6 - 7 * - | - - 8 //

D 1 2 - 3 | 4 - * - 5 | - 6 サユオン | ナ //

5. 干瀬に居る節 CD旋律はAB旋律の反復

A 1 2 | 3 --- | 4 --- | -- 5 - | - - - - | 6 - 7 - | 8 - ヨ - | ウネ //

B 1 --- | 2 --- | * - 3 - | - - 4 5 | 6 7 8 * |

C 1 2 | 3 --- | 4 --- | -- 5 - | - - - - | 6 - 7 - | 8 - ヨ - | ウネ //

D 1 --- | 2 --- | * - 3 - | - - 4 5 | 6 7 8 * |

6-1. あたい芋節 1 CD旋律はAB旋律の反復 B句第6-8シラブルなし

A | 1 2 3 - | 4 - - - | 5 - ヨ - | 6 - - | 7 - 8 * |

B * 1 2 - | 3 - ヨ - | 4 - - - | 5 - ヨイ | サ - ヨ | スラ - サン | ナ - ヨイヤ | サ * * サ | ティム - ツ | ラ - ヨイ* |

C | 1 2 3 - | 4 - - - | 5 - ヨ - | 6 - - | 7 8 * |

D * 1 2 - | 3 - ヨ - | 4 - 5 - | 6 - - ヨイ | サ - ヨ | スラ - サン | ナ - ヨイヤ | サ * * サ | ティム - ツ | ラ - ヨイ* |

6-2. あたい芋節 2 CD旋律はAB旋律の反復

A スレ | - 1 2 3 | 4 - | 5 - | 6 7 | 8 - ス | レ //

B - 1 2 3 | 4 - | 5 - | 6 7 | 8 * スレ | ザンナ | ヨイ* //

C スレ | - 1 2 3 | 4 - | 5 - | 6 7 | 8 - ス | レ //

D - 1 2 3 | 4 - | 5 - | 6 スレ | ザンナ | ヨイ* //

7-1. 大田名節 1

A 1 2 3 | 4 - 5 | - 6 7 | * - 8 ヨ |

B - 1 2 3 | 4 - 5 | 6 7 8 | ヒヨスリ |

C 1 2 3 | 4 - 5 | 6 7 * | * - 8 ヨ |

D 1 2 3 | 4 - 5 | 6 ヨンゾ | ヨスリヨンゾ | ヨ //

7-2. 大田名節 2

A 1 2 3 | 4 5 | - 6 7 | * - 8 スリ |

B - 1 2 3 | - 4 - 5 | * 6 7 8 | ストスリ | エスリスリ |

C 1 2 3 | - 4 - | 5 * 6 | 7 - | 8 スリ //

D - 1 2 3 | - 4 5 | 6 ヨン | ナイ //

8. あめ伊集節 CD旋律はAB旋律の反復

A 1 2 | 3 --- | 4 --- | 5 - ヨ - | 6 - 7 * | * - - - | 8 - - - | シタリヌ | ナイチヌガ | - - //

B 1 - - - | 2 - 3 - | 4 - - - | * - 5 - | - 6 7 8 | ヨ - サ - | アシタリヌ | ヨ //

C 1 2 | 3 --- | 4 --- | 5 - ヨ | 6 - 7 * | * - - - | 8 - - - | シタリヌ | ナイチヌガ | - - //

D 1 - - - | 2 - 3 - | 4 - - - | * - 5 - | - 6 ヨ - | ナ - サ - | アシタリヌ | ヨ //

9. ハリ諸鈍 歌詞は琉歌形式の部分 B、C旋律はA旋律の反復

A ハリ | 1 2 3 ㊄ | 4 - 5*㊄ | 6 *7 - | - 8*ハリ | ヤルガ㊄ | ㊄ //

B ハリ | 1 2 3 ㊄ | 4 - 5*㊄ | 6 *7 - | - 8* //

C ハリ | 1 2 3 ㊄ | 4 - 5*㊄ | 6 *7 - | - 8*ハリ | ヤルガ㊄ | ㊄ //

10. ぢんなく節 後半CD旋律は前半CD旋律の反復

A | 1 2 3 4 5 | - 6 7 8 |

B | 1 2 3 4 5 | - 6 7 8 | ㊄んナク |

C | 1 2 3 4 5 | - 6 7 8 |

D | 1 2 3 4 5 | - 6 ヒヤルガ | ㊄んナク * |

C | 1 2 3 4 5 | - 6 7 8 |

D | 1 2 3 4 5 | - 6 ヒヤルガ | ㊄んナク * | シッシッシ* |

11. ちんちやぐぬ花 後半CD旋律は前半CD旋律の反復

A | 1 2 3 4 5 6 | 7 8 //

B | 1 2 3 4 5 6 | 7 - 8 - |

C * 1 2 | - 3 4 5 6 | 7 8 //

D | 1 2 3 4 - 5 | 6 ウマデン ス | ナ * //

C * 1 2 | - 3 4 5 6 | 7 8 //

D | 1 2 3 4 - 5 | 6 ウマデン ス | ナ * //

12. 永良部潟原 歌詞は88形

A 1 - 2 - | 3 - - - | 4 - 5 - | - 6 7 - | 8 - ササ |

B 1 - 2 - | 3 - - - | 4 - 5 - | 6 - 7 - | 8 - ヒツクリ |

チユ㊄ ハリ | チユ㊄ ㊄ ハリ | ウムシル | ヤスリ ← | フックラサ ス | ヤスリ //

13. 安波節 CD旋律はAB旋律の反復

A 1 2 3 | 4 - | 5 - 6 | 7 - | 8 * ハリ |

B 1 2 3 | 4 - | 5 - 6 | 7 - | 8*トウトウン | テントウナガ スル | メユ スサ | ミヤビタン //

C 1 2 3 | 4 - | 5 - 6 | 7 - | 8 * ハリ |

D 1 2 3 | 4 - | ← ← | 5 - | 6*トウトウン | テントウナガ スル | メユ スサ | マクシカイ //

14. あさぎ庭

A | 1 2 3 4 5 | 6 7 8 - |

B | 1 2 3 4 5 | 6 7 8 - |

C | 1 2 3 4 5 | 6 7 - 8 |

D | 1 2 3 4 5 | 6 //

